

浜の活力再生プラン
令和 8 ～ 1 2 年度
(第 1 期)

1 地域水産業再生委員会 (ID:1109017)

組織名	千葉県地域水産業再生委員会内湾地区部会
代表者名	内湾地区部会長 佐久間 國治 (富津漁業協同組合代表理事組合長)

再生委員会の構成員	市川市、船橋市、金田、新木更津市、富津、新富津、天羽の各漁業協同組合、市川市、船橋市、木更津市、富津市の各水産主務課、千葉県 (水産課、漁業資源課)、千葉県漁業協同組合連合会
オブザーバー	千葉県水産総合研究センター

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	市川市 (市川市漁業協同組合の地区) ノリ養殖漁業 (7名 (4経営体)) (令和7年4月時点)
-------------------	--

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>【千葉県ノリ養殖業の現状】</p> <p>県内ノリ養殖業の経営体は、平成24年度には285経営体であったが、令和6年度は93経営体と著しく減少しており、減少の要因は生産者本人や家族労働者の高齢化が挙げられる。</p> <p>生産量は、平成14年度漁期には過去最高の5億枚を生産したが、直近5年 (令和2年度漁期～令和6年度漁期の平均値) においては8千万枚程度まで減少している。原因は経営体数の減少のほか、高水温化や貧栄養化など海洋環境の変化に加え、クロダイ等による食害が影響している。</p> <p>養殖規模は廃業した経営体の柵の割当てや省力化を進め、令和6年の経営体あたりの柵数は233柵/経営体であり、30年前 (平成8年) の153柵/経営体から、約1.5倍程度となっているが、近年は労力及び施設能力的に限界に達し、生産枚数は横ばい傾向である。</p> <p>極端な不作となった平成27年度漁期以前は、年によりばらつきはあるが、生産金額は23億円から48億円程度で推移 (平成17年～26年度漁期の値) していたが、近年は生産枚数の激減により生産金額が伸び悩んでいる。</p> <p>本県のノリは全国の中でも高単価で取引されてきたが、高価格帯の贈答用需要から中低価格帯のコンビニ等の業務用需要への変化や食の多様化、さらには低価格の中国・韓国産ノリの輸入量増加などの影響を受けて、平均単価は長期的には下落傾向にある。近年、生産枚数が激減していることにより平均単価は高めで推移しており、令和6年漁期は海苔1枚あたり25.7円にまで上昇したが、市況は全国の生産の状況により影響を受けるため、今後の動向は不透明である。</p> <p>ノリ養殖業は本県の魚種別生産金額の上位に位置し、東京湾内湾漁業の基幹産業であるが、経営体の減少や高水温等の養殖環境の悪化、魚類等による食害等により、漁家経営は大変厳しい状況にあることから、陸上加工施設の共同利用の推進による生産性の向上、省エネ機器の導入によるコスト削減などに引き続き取り組む必要がある。</p> <p>【市川市地区ノリ養殖の現状】</p> <p>当地区は県内東京湾内の他地区と同様、漁場環境の変化や燃油価格の高騰等の影響を受け、漁家経営は厳しい状況にある。</p> <p>当地区におけるノリ養殖業の生産額の割合は、平成25年からの10年間の平均値は39%であったが、令和6年漁期における割合は53%と、その割合が上昇している。特に近年、当地区</p>

における主要魚種であるホンビノスガイの漁獲量が減少していることから、ノリ養殖業による生産額の占める割合が増加しており、当地区におけるノリ養殖業の重要性は一層高まっている。

市川市漁業協同組合が保有しているノリ網冷凍保管庫は平成23年に整備されたものであるが、これは温室効果が高く排出抑制対象となっているR404A冷媒を使用した機器である。R404A冷媒は段階的に製造を縮減していくこととされており、今後冷媒漏れが発生した場合に迅速に修理の対応が出来ず、漁期中に故障した際には、ノリの生産に大きな打撃が生じる懸念があり、施設を改築する必要が生じている。

(2) その他の関連する現状等

市川市は、都心から20キロメートルの圏内に位置し、住宅都市として発展している。都心部と県内各地域を結ぶ広域交通網が集中する位置にあり、JR総武線や京葉線などの鉄道その他、京葉道路や湾岸道路などの道路がある。

臨海部は京葉臨海工業地帯の開発計画の一環として昭和32年より順次埋め立てられ、企業進出等により物流の拠点や工業地帯が広がっている。

当地区では、ノリ養殖業以外に小型機船底びき網漁業や採貝漁業などが営まれており、これらにより生産される水産物としては、主にスズキやホンビノスガイなどがあり、特にホンビノスガイは2017年から「三番瀬ホンビノス貝」として千葉ブランド水産物に認定されPRしているが、資源の減少に伴い、近年漁獲量は減少傾向にある。

3 活性化の取組方針

(1) 基本方針

1 漁業収入向上のための取組

(1) ノリの価格向上や生産量の拡大

- 種付けをしたノリ網を保管する冷凍庫は、フロン排出抑制法で抑制対象となっているR404A冷媒を使った機器であり、R404A冷媒は段階的に製造を縮減していくこととされており、冷媒漏れ等故障が生じた場合に、迅速な修理の対応が出来ず、当地区のノリ生産に大きな打撃が生じる可能性があるため、冷凍庫を改築することで、ノリ網の保管環境を向上させ、より良い品質のノリの生産量拡大による平均単価向上を図る。
- 種付けしたノリ網のうち、2割はそのまま漁場で育てられ、8割は張り替え用として一旦冷凍庫で保管されているが、冷凍庫の機能低下により、十分に冷凍されず3%程度は傷んで使い物にならなくなる。このことから、冷凍庫を改築し冷凍機能を強化することで、全てのノリ網を傷めず質の良い状態で保管し、生産量の拡大を図る。
- 県が開発した色調が優れる新品種（CTBFL-P241）の利用を継続し、千葉県等関係機関とともにブランド化を確立するなど、積極的なPR等を行っていくことで、漁業者の所得向上を図る。

(2) 生産対策

- 近年の気象・海況の変化に対応するため、漁場環境の把握と変動予測に基づく適切な養殖開始時期の検討、育苗期のノリ芽の健全度調査及び千葉県水産総合研究センターの発行する「ノリ養殖通報」を参考に適切に養殖施設の管理を行う。
- 平成27年漁期からの年内生産期を中心とする極端な生育不良の発生については、クロダイ等の食害の増大が原因であることがわかってきた。このため、食圧の高い浮き流し漁場に防除ネットを設置しないノリ網を設置してクロダイを誘引し、隣接する養殖施設には防除ネットを設置することで、食害軽減を図る。これらの実施にあたっては、水産総合研究センターの指導を受けて取り組む。
- 台風等の災害による被害が懸念される場合、張り出しているノリ網を冷凍庫へ避難入庫させる。

2 漁業コスト削減のための取組

(1) 省エネ活動等による省コスト化

- 冷凍庫を改築し、省エネ対応とすることで冷凍庫稼働に係る電気代等のコスト削減を図る。

- ・また、生産者はセーフティネットの加入により燃油高騰時の経営リスクに備えるとともに、減速航行の徹底、船底の清掃及び抵抗の少ない塗料の使用を検討するなど、燃油量削減を図る。
- ・フロン排出抑制法の対象となる冷媒を使用する冷却器から、冷却効率が良く地球温暖化への影響が小さいHF0系冷媒の冷却器に改築し、低コストで環境負荷が小さい生産を図る。

3 漁村の活性化のための取組

(1) 海業による交流人口や生産者収入の拡大

- ・市川漁港において朝市などのイベントを開催し、漁業体験や水産物販売等を実施することで、市川市の水産物の知名度向上と交流人口及び消費の拡大を図る。

(2) 交流人口の拡大

- ・SNS等を活用して、朝市などのイベントや市川市で水揚げされる水産物のPRを行い、地域への集客向上を図る。

(3) 担い手対策

- ・千葉県や千葉県漁連などと連携して、全国漁業就業者確保育成センターや千葉県が実施する就業相談会や就業体験の制度を活用して、新規就業者の確保、若手生産者の育成を図る。

(4) その他の取組

- ・市内小学校で実施されるノリスキ体験授業や、学校給食での生ノリや板ノリの活用を支援し、食育と地産地消の取組を推進する。
- ・市内鮮魚店等と協力して生ノリ販売を実施することで、地域の水産物の消費拡大、普及を図る。

(2) 資源管理に係る取組

【市川市漁業協同組合のり養殖漁場改善計画】

持続的養殖生産確保法第4条の規定により、漁場改善計画を作成している。

主な内容は、漁場の適切な利用（密植防止等）、養殖資材の適正な撤去・処分、浸漬処理剤の使用基準の遵守などを定めている。

(3) 具体的な取組内容

1年目（令和8年度） 所得向上率（基準年比）3.8%

漁業収入向上のための取組	<p>(1) ノリの価格向上や生産量の拡大</p> <ul style="list-style-type: none">・種付けをしたノリ網を保管する冷凍庫での使用冷媒（R404A冷媒）は、現在製造が縮減されており、故障時に迅速な対応が難しいことから、施設を改築する。なお、現在の冷凍庫整備時から、時間が経過していることから、能力等の適正化も検討したうえで改築を行う。・高単価が期待される色味のよい新品種（CTBFL-P241）について、千葉県、市川市や流通業者と連携した販売促進により、その継続利用を図る。 <p>(2) 生産対策</p> <ul style="list-style-type: none">・市川市漁協と生産者は、ノリ網の張り出し日を決定するに当たり、千葉県水産総合研究センターが運用するノリ漁場水温予報システム、気象庁やヨーロッパ中期予報センター等の7～10日先の予報を活用する。また、近年の大型台風に対する適切な対策を講じるため、先の予報の活用と併せて、千葉県水産総合研究センターの発行する「ノリ養殖通報」を参考に適切に、養殖施設の管理を行う。・生産者は、クロダイ等によるノリの食害を防ぐ防除ネット及び餌場を設置し、被害軽減を図る。・生産者は、近年の食害による生育不良の対策手法について、県内他地区や他県の有効事例を調査し対策を検討する。・台風等の災害による被害が懸念される場合、張り出しているノリ網を冷凍庫へ避難入庫させる。
漁業コスト削減のための取組	<p>(1) 省エネ活動等による省コスト化</p> <ul style="list-style-type: none">・市川市漁協は、種付けされたノリ網などを保管する冷凍庫が機能低下しているため、冷凍庫を改築し、省エネ効果が高い施設とする。・生産者はセーフティーネットの加入により燃油高騰時の経営リスクに備えるとともに、減速航行の徹底、船底の清掃などを実施することにより燃油量削減を図る。・フロン排出抑制法の対象となる冷媒を使用する冷却器から、冷却効率が良く地球温暖化への影響が小さいHF0系冷媒の冷却器に改築し、低コストで環境負荷が小さい生産を図る。
漁村の活性化のための取組	<p>(1) 海業による交流人口や生産者収入の拡大</p> <ul style="list-style-type: none">・市川市漁協は、市川漁港で毎月開催している朝市や、その他市川市内の水産業関係イベント等へ参加し、漁業体験や水産物販売を推進することにより、市川市の水産物の知名度向上と交流人口及び消費の拡大を図る。 <p>(2) 交流人口の拡充</p> <ul style="list-style-type: none">・市川市漁協は、朝市や水揚げされる水産物のPRを行うため、HP、SNS、YouTube等の活用方法等を検討する。また、市川市や地域の広報誌を作成している企業と積極的な連携を図る。 <p>(3) 担い手対策</p> <ul style="list-style-type: none">・市川市漁協は、HP、SNS、YouTubeなどを活用して、市川漁港で毎月開催している朝市や生産者の取り組みを紹介し、地域の漁業の魅力をPRする。・新規漁業就業者には、ベテラン生産者の熟練した技術を引き継いでいくため、個別指導による実戦形式の研修を行う。・市川市漁協は、全国漁業就業者確保育成センターや千葉県の担い手確保支援策と連携し、地区への漁業就業の相談があった場合には積極的な受入れや、漁業技術研修の実施を行い、新規就業希望者の確保を図る。

	<p>(4) その他の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川市漁協は市川市と積極的に連携し、市川市が実施している市内小学校で実施されるノリスき体験授業や、学校給食のメニューに生ノリや板ノリを活用するための支援等を行い、食育と地産地消の取組を推進する。 ・市川市漁協は市内鮮魚店等と協力して生ノリ販売等を実施することで、地域の水産物の消費拡大、普及を図る。
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業強化支援事業 ・水産業競争力強化緊急施設整備事業 ・漁業セーフティネット構築事業 ・水産業競争力強化緊急事業 ・海業による地域活性化支援事業（県） ・東京湾漁業総合対策事業（県） ・市川市水産業振興対策事業（市） ・経営体育成総合支援事業 ・漁業の担い手確保・育成総合対策事業（県）

2年目（令和9年度） 所得向上率（基準年比）7.2%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>(1) ノリの価格向上や生産量の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者は、令和8年度に改築した冷凍庫を活用し、ノリの品質の向上による平均単価の向上を図る。 ・冷凍庫の改築により、冷凍機能が強化され、傷まず質の良い状態で保管できるようになることから、冷凍庫を適切に活用し、機能低下で傷み養殖できないノリ網を減らし、生産量の増大を図る。 ・高単価が期待される色味のよい新品種（CTBFL-P241）について、千葉県、市川市や流通業者と連携した販売促進により、その継続利用を図る。 <p>(2) 生産対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川市漁協と生産者は、ノリ網の張り出し日を決定するに当たり、千葉県水産総合研究センターが運用するノリ漁場水温予報システム、気象庁やヨーロッパ中期予報センター等の7～10日先の予報を活用する。また、近年の大型台風に対する適切な対策を講じるため、先の予報の活用と併せて、千葉県水産総合研究センターの発行する「ノリ養殖通報」を参考に適切に、養殖施設の管理を行う。 ・生産者は、クロダイ等によるノリの食害を防ぐ防除ネット及び餌場を設置し、被害軽減を図る。 ・生産者は、近年の食害による生育不良の対策手法について、前年度に調査した県内他地区や他県の有効事例を実施する。 ・台風等の災害による被害が懸念される場合、張り出しているノリ網を冷凍庫へ避難入庫させる。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>(1) 省エネ活動等による省コスト化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者は、改築した省エネ効果が高い最新設備を活用し、電気代等の経費の削減を図る。 ・生産者はセーフティネットの加入により燃油高騰時の経営リスクに備えるとともに、減速航行の徹底、船底の清掃などを実施することにより燃油量削減を図る。 ・フロン排出抑制法の対象となる冷媒を使用する冷却器から、冷却効率が良く地球温暖化への影響が小さいHF0系冷媒の冷却器に改築し、低コストで環境負荷が小さい生産を図る。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>(1) 海業による交流人口や生産者収入の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川市漁協は、市川漁港で毎月開催している朝市や、その他市川市内の水産業関係イベント等に参加し、漁業体験や水産物販売を推進することにより、市川市の水産物の知名度向上と交流人口及び消費の拡大を図る。 <p>(2) 交流人口の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川市漁協は、HP、SNS、YouTube等を活用し、朝市や水揚げされる水産物のPRを行う。また、引き続き市川市や地域の広報誌を作成している企業と連携し積極的なPR活動を実施する。 <p>(3) 担い手対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川市漁協は、HP、SNS、YouTubeなどを活用して、市川漁港で毎月開催している朝市や生産者の取り組みを紹介し、地域の漁業の魅力をPRする。 ・新規漁業就業者には、ベテラン生産者の熟練した技術を引き継いでいくため、個別指導による実戦形式の研修を行う。 ・市川市漁協は、全国漁業就業者確保育成センターや千葉県の担い手確保支援策と連携し、地区への漁業就業の相談があった場合には積極的な受入れや、漁業技術研修の実施を行い、新規就業希望者の確保を図る。

	<p>(4) その他の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川市漁協は引き続き市川市と積極的に連携し、市川市が実施している市内小学校で実施されるノリ漉き体験授業や、学校給食のメニューに生ノリや板ノリを活用するための支援等を行い、食育と地産地消の取組を推進する。 ・市川市漁協は市内鮮魚店等と協力して生ノリ販売等を実施することで、地域の水産物の消費拡大、普及を図る。
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業強化支援事業 ・水産業競争力強化緊急施設整備事業 ・漁業セーフティネット構築事業 ・水産業競争力強化緊急事業 ・海業による地域活性化支援事業（県） ・東京湾漁業総合対策事業（県） ・市川市水産業振興対策事業（市） ・経営体育成総合支援事業 ・漁業の担い手確保・育成総合対策事業（県）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>(1) ノリの価格向上や生産量の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者は、令和8年度に改築した冷凍庫を活用し、ノリの品質の向上による平均単価の向上を図る。 ・冷凍庫の改築により、冷凍機能が強化され、傷まず質の良い状態で保管できるようになることから、冷凍庫を適切に活用し、機能低下で傷み養殖できないノリ網を減らし、生産量の増大を図る。 ・高単価が期待される色味のよい新品種（CTBFL-P241）について、千葉県、市川市や流通業者と連携した販売促進により、その継続利用を図る。 <p>(2) 生産対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川市漁協と生産者は、ノリ網の張り出し日を決定するにあたり、千葉県水産総合研究センターが運用するノリ漁場水温予報システム、気象庁やヨーロッパ中期予報センター等の7～10日先の予報を活用する。また、近年の大型台風に対する適切な対策を講じるため、先の予報の活用と併せて、千葉県水産総合研究センターの発行する「ノリ養殖通報」を参考に適切に、養殖施設の管理を行う。 ・生産者は、クロダイ等によるノリの食害を防ぐ防除ネット及び餌場を設置し、被害軽減を図る。 ・生産者は、近年の食害による生育不良の対策手法について、県内他 地区や他県の有効事例を調査し対策を実施するとともに、実施結果について、効果の検証を行う。 ・台風等の災害による被害が懸念される場合、張り出しているノリ網を冷凍庫へ避難入庫させる。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>(1) 省エネ活動等による省コスト化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者は、引き続き改築された省エネ効果が高い最新設備を活用し、電気代等の経費の削減を図る。 ・生産者はセーフティーネットの加入により燃油高騰時の経営リスクに備えるとともに、減速航行の徹底、船底の清掃などを実施することにより燃油量削減を図る。 ・フロン排出抑制法の対象となる冷媒を使用する冷却器から、冷却効率が良く地球温暖化への影響が小さいHFO系冷媒の冷却器に改築し、低コストで環境負荷が小さい生産を図る。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>(1) 海業による交流人口や生産者収入の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川市漁協は、市川漁港で毎月開催している朝市や、その他市川市内の水産業関係イベント等に参加し、漁業体験や水産物販売を推進することにより、市川市の水産物の知名度向上と交流人口及び消費の拡大を図る。 <p>(2) 交流人口の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川市漁協は、HP、SNS、YouTube等を活用し、朝市や水揚げされる水産物のPRを行う。また、引き続き市川市や地域の広報誌を作成している企業と連携し積極的なPR活動を実施する。 <p>(3) 担い手対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川市漁協は、HP、SNS、YouTubeなどを活用して、市川漁港で毎月開催している朝市や生産者の取り組みを紹介し、地域の漁業の魅力をPRする。 ・新規漁業就業者には、ベテラン生産者の熟練した技術を引き継いでいくため、個別指導による実戦形式の研修を行う。 ・市川市漁協は、全国漁業就業者確保育成センターや千葉県の担い手確保支援策と連携し、地区への漁業就業の相談があった場合には積極的な受入れや、漁業技術研修の実施を行い、新規就業希望者の確保を図る。

	<p>(4) その他の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川市漁協は引き続き市川市と積極的に連携し、市川市が実施している市内小学校で実施されるノリ漉き体験授業や、学校給食のメニューに生ノリや板ノリを活用するための支援等を行い、食育と地産地消の取組を推進する。 ・市川市漁協は市内鮮魚店等と協力して生ノリ販売等を実施することで、地域の水産物の消費拡大、普及を図る。
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業強化支援事業 ・水産業競争力強化緊急施設整備事業 ・漁業セーフティネット構築事業 ・水産業競争力強化緊急事業 ・海業による地域活性化支援事業（県） ・東京湾漁業総合対策事業（県） ・市川市水産業振興対策事業（市） ・経営体育成総合支援事業 ・漁業の担い手確保・育成総合対策事業（県）

4年目（令和11年度） 所得向上率（基準年比）14.0%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>(1) ノリの価格向上や生産量の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者は、令和8年度に改築した冷凍庫を活用し、ノリの品質向上による平均単価向上を図る。 ・冷凍庫の改築により、冷凍機能が強化され、傷まず質の良い状態で保管できるようになることから、冷凍庫を適切に活用し、機能低下で傷み養殖できないノリ網を減らし、生産量の増大を図る。 ・高単価が期待される色味のよい新品種（CTBFL-P241）について、千葉県、市川市や流通業者と連携した販売促進により、その継続利用を図る。 <p>(2) 生産対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川市漁協と生産者は、ノリ網の張り出し日を決定するにあたり千葉県水産総合研究センターが運用するノリ漁場水温予報システム、気象庁やヨーロッパ中期予報センター等の7～10日先の予報を活用する。また、近年の大型台風に対する適切な対策を講じるため、先の予報の活用と併せて、千葉県水産総合研究センターの発行する「ノリ養殖通報」を参考に適切に、養殖施設の管理を行う。 ・生産者は、クロダイ等によるノリの食害を防ぐ防除ネット及び餌場を設置し、被害軽減を図る。 ・生産者は、近年の食害による生育不良の対策手法について、県内他地区や他県の有効事例を調査し対策を実施するとともに、これまで実施してきた対策の効果を検証する。 ・台風等の災害による被害が懸念される場合、張り出しているノリ網を冷凍庫へ避難入庫させる。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>(1) 省エネ活動等による省コスト化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者は、引き続き改築された省エネ効果が高い最新設備を活用し、電気代等の経費の削減を図る。 ・生産者はセーフティーネットの加入により燃油高騰時の経営リスクに備えるとともに、減速航行の徹底、船底の清掃などを実施することにより燃油量削減を図る。 ・フロン排出抑制法の対象となる冷媒を使用する冷却器から、冷却効率が良く地球温暖化への影響が小さいHF0系冷媒の冷却器に改築し、低コストで環境負荷が小さい生産を図る。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>(1) 海業による交流人口や生産者収入の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川市漁協は、市川漁港で毎月開催している朝市や、その他市川市内の水産業関係イベント等に参加し、漁業体験や水産物販売を推進することにより、市川市の水産物の知名度向上と交流人口及び消費の拡大を図る。 <p>(2) 交流人口の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川市漁協は、HP、SNS、YouTube等を活用して、朝市や水揚げされる水産物のPRを行う。また、引き続き市川市や地域の広報誌を作成している企業と連携し積極的なPR活動を実施する。 <p>(3) 担い手対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川市漁協は、HP、SNS、YouTubeなどを活用して、市川漁港で毎月開催している朝市や生産者の取り組みを紹介し、地域の漁業の魅力をPRする。 ・新規漁業就業者には、ベテラン生産者の熟練した技術を引き継いでいくため、個別指導による実戦形式の研修を行う。 ・市川市漁協は、全国漁業就業者確保育成センターや千葉県の担い手確保支援策と連携し、地区への漁業就業の相談があった場合には積極的な受入れや、漁業技術研修の実施を行い、新規就業希望者の確保を図る。

	<p>(4) その他の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川市漁協は引き続き市川市と積極的に連携し、市川市が実施している市内小学校で実施されるノリ漉き体験授業や、学校給食のメニューに生ノリや板ノリを活用するための支援等を行い、食育と地産地消の取組を推進する。 ・市川市漁協は市内鮮魚店等と協力して生ノリ販売等を実施することで、地域の水産物の消費拡大、普及を図る。
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業強化支援事業 ・水産業競争力強化緊急施設整備事業 ・漁業セーフティネット構築事業 ・水産業競争力強化緊急事業 ・海業による地域活性化支援事業（県） ・東京湾漁業総合対策事業（県） ・市川市水産業振興対策事業（市） ・経営体育成総合支援事業 ・漁業の担い手確保・育成総合対策事業（県）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>(1) ノリの価格向上や生産量の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産者は、令和8年度に改築した冷凍庫を活用し、ノリの品質向上による平均単価向上を図る。 冷凍庫の改築により、冷凍機能が強化され、傷まず質の良い状態で保管できるようになることから、冷凍庫を適切に活用し、機能低下で傷み養殖できないノリ網を減らし、生産量の増大を図る。 高単価が期待される色味のよい新品種（CTBFL-P241）について、千葉県、市川市や流通業者と連携した販売促進により、その継続利用を図る。 <p>(2) 生産対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 市川市漁協と生産者は、ノリ網の張り出し日を決定するにあたり千葉県水産総合研究センターが運用するノリ漁場水温予報システム、気象庁やヨーロッパ中期予報センター等の7～10日先の予報を活用する。また、近年の大型台風に対する適切な対策を講じるため、先の予報の活用と併せて、千葉県水産総合研究センターの発行する「ノリ養殖通報」を参考に適切に、養殖施設の管理を行う。 生産者は、クロダイ等によるノリの食害を防ぐ防除ネット及び餌場を設置し、被害軽減を図る。 生産者は、近年の食害による生育不良の対策手法について、県内他地区や他県の有効事例を調査し対策を実施するとともに、これまで実施してきた対策の効果を検証する。 台風等の災害による被害が懸念される場合、張り出しているノリ網を冷凍庫へ避難入庫させる。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>(1) 省エネ活動等による省コスト化</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産者は、引き続き改築された省エネ効果が高い最新設備を活用し、電気代等の経費の削減を図る。 生産者はセーフティーネットの加入により燃油高騰時の経営リスクに備えるとともに、減速航行の徹底、船底の清掃などを実施することにより燃油量削減を図る。 フロン排出抑制法の対象となる冷媒を使用する冷却器から、冷却効率が良く地球温暖化への影響が小さいHFO系冷媒の冷却器に改築し、低コストで環境負荷が小さい生産を図る。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>(1) 海業による交流人口や生産者収入の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 市川市漁協は、市川漁港で毎月開催している朝市や、その他市川市内の水産業関係イベント等に参加し、漁業関連体験や水産物販売を推進することにより、市川市の水産物の知名度向上と交流人口及び消費の拡大を図る。 <p>(2) 交流人口の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> 市川市漁協は、HP、SNS、YouTube等を活用して、朝市や水揚げされる水産物のPRを行う。また、引き続き市川市や地域の広報誌を作成している企業と連携し積極的なPR活動を実施する。 <p>(3) 担い手対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 市川市漁協は、HP、SNS、YouTubeなどを活用して、市川漁港で毎月開催している朝市や生産者の取り組みを紹介し、地域の漁業の魅力をPRする。 新規漁業就業者には、ベテラン生産者の熟練した技術を引き継いでいくため、個別指導による実戦形式の研修を行う。 市川市漁協は、全国漁業就業者確保育成センターや千葉県の担い手確保支援策と連携し、地区への漁業就業の相談があった場合には積極的な受入れや、漁業技術研修の実施を行い、新規就業希望者の確保を図る。

	<p>(4) その他の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川市漁協は引き続き市川市と積極的に連携し、市川市が実施している市内小学校で実施されるノリ漉き体験授業や、学校給食のメニューに生ノリや板ノリを活用するための支援等を行い、食育と地産地消の取組を推進する。 ・市川市漁協は市内鮮魚店等と協力して生ノリ販売等を実施することで、地域の水産物の消費拡大、普及を図る。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業強化支援事業 ・水産業競争力強化緊急施設整備事業 ・漁業セーフティネット構築事業 ・水産業競争力強化緊急事業 ・海業による地域活性化支援事業（県） ・東京湾漁業総合対策事業（県） ・市川市水産業振興対策事業（市） ・経営体育成総合支援事業 ・漁業の担い手確保・育成総合対策事業（県）

(4) 関係機関との連携

<p>①千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所 生産者は、千葉県水産総合研究センターにノリ養殖技術に関する相談をし、指導を受けている。</p> <p>②（公財）千葉県水産振興公社 生産者は、公社から、県で開発された新品種のノリ種苗を購入できる体制が整備されている。</p>
--

(5) 取組の評価・分析の方法・実施体制

<p>浜プランの実施状況及び効果の発現状況を自ら評価し、それを踏まえた取組の改善を検討するため、毎年度末（3月）に開催する会員会議において、委員会事務局が策定した自己評価案を審議・決定し、次年度の取組の改善等につなげる。</p>
--

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の向上 10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

① 所得向上の取組に係る成果目標

乾ノリ 1枚当たりの 平均単価の向上	基準年	令和2～6年度 5中3平均：	17.4	円/枚
	目標年	令和12年度：	18.2	円/枚

② 漁村活性化の取組に係る成果目標

漁港朝市(毎月1回開催)の 平均入場者数の増加	基準年	令和6年度：	200	人
	目標年	令和12年度：	300	人

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

① 所得向上の取組に係る成果目標

世界的な気候変動の影響による水温上昇や、クロダイ等による食害等により、当地区のノリ養殖は厳しい状況にあるが、ノリ網の冷凍保管庫の冷凍庫の改築による冷凍網の品質向上や、高水温耐性品種の導入促進、防除ネット等による食害対策等を講じて、ノリの品質を向上させることで、令和12年度までに5%の単価向上を図る。

② 漁村活性化の取組に係る成果目標

市川市漁協が行う市川漁港での朝市は、近年開始された取組であり、市川市の水産業を広く知ってもらう機会となっている。令和6年度における平均入場者数は200人/回であるが、SNS等を用いたPRを実施し、令和12年度までに現状の1.5倍である300人/回まで増加させる。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産業強化支援事業（国）	内容：水産業の健全な発展と水産物の安定供給の確保を目的として、委員会が作成する計画に基づいて、ソフト支援とハード支援を行う。 関連性：プランにおいて、冷凍施設の改築を挙げている。
水産業競争力強化緊急施設整備事業（国）	内容：広域浜プランに基づく競争力強化のために必要となる共同利用施設の整備等を支援する。
海業による地域活性化支援事業（県）	内容：漁港を活用した水産業を振興する事業を行う。 関連性：プランにおいて、漁港での朝市開催を挙げている。
漁業セーフティネット構築事業（国）	内容：燃油等の価格高騰に際し、漁業者と国の抛出によりセーフティネットを構築 関連性：燃油等の価格高騰に対する補填を受けるため活用
水産業競争力強化緊急事業（国）	内容：広域浜プランに関連する機器導入等について支援を行う。 関連性：広域浜プランに基づき漁協が実施する機器導入等に活用
東京湾漁業総合対策事業（県）	内容：東京湾沿岸の漁協等が取り組む各種事業に要する経費への支援 関連性：生産基盤の整備等を図るため活用
市川市水産業振興対策事業（市）	内容：本市の水産業の振興を図るため、本市の水産物の普及及び本市の水産業の振興を図る活動を行う団体に対し、補助金を交付する。 関連性：ノリ養殖に関わる施設整備の支援を行う。
経営体育成総合支援事業	内容：新規就業者の確保・育成を目的とした段階に応じた支援 関連性：中核的担い手の確保・育成の取組で活用
漁業の担い手確保・育成総合対策事業（県）	内容：新規就業者の確保・育成を目的とした段階に応じた支援 関連性：中核的担い手の確保・育成の取組で活用